

学位請求論文の内容の要旨

領 域	看護学	分 野	
氏 名	多喜代 健吾		
(論文題目) 保育施設におけるインフルエンザ対策プログラムの開発および効果の検討 ー保育士のインフルエンザ対策の現状と課題からー			
主 査	高橋 徹		
副 査	長内 智宏		
副 査	宮崎 航		
副 査	北宮 千秋		
<p>1. 目的</p> <p>保育施設において感染症対策の中心的役割を担うのは看護職(看護師・保健師)であるが、現実には看護職が関与する保育園は半数に満たず、その役割は保育士にも期待されることになる。研究代表者は保育士とのかかわりの中で、保育士が感染症の中でも毎年一定の流行がみられるインフルエンザ対策の実施について困難を感じており、取り組みが十分に行われていない現状を知った。インフルエンザ対策は世界的に重要な公衆衛生の取り組みの1つである。</p> <p>そこで本研究では、①保育士のインフルエンザ対策の実態と保育士の対策の実践における課題をインタビュー調査により明らし、②保育士が実践可能なインフルエンザ対策プログラムを開発することを目的とした。専門家が常駐していない場合でも対策を行える環境を整えることで、集団における感染症発生リスクマネジメントとなることにこの研究の意義がある。</p> <p>2. 研究方法</p> <p>本研究は研究Ⅰ(第1、2段階)、研究Ⅱ(第1、2段階)で構成される。</p> <p><b>研究Ⅰ：保育士のインフルエンザ対策の実態および実践における課題に基づいたインフルエンザ対策プログラムの開発</b></p> <p>【第1段階：感染症に関する文献検討、インフルエンザ対策ベースプログラムの検討】</p> <p>保育所における感染症対策ガイドライン(以下、ガイドラインとする)、感染症に関する資料等を参考にベースとなるプログラムを検討した。</p> <p>【第2段階：保育士のインフルエンザ対策の実態と実践における課題に関するインタビュー調査およびベースプログラムとインタビュー調査を統合したインフルエンザ対策プログラムの開発と実施】</p> <p>1)対象と方法</p> <p>調査対象：A県B市内の3保育施設に勤務する保育士9名とし、1施設当たり3名ずつ、それぞれが担当しているクラスの年齢が異なるように選出してもらった。</p> <p>調査期間：2018年10月であった。</p> <p>調査方法：インタビューガイドに基づいた、個別での半構造化面接であった。</p>			

(注) 論文題目が外国語の場合は、和訳を付すこと。

【細則様式第1－2号続き】

調査内容：インフルエンザについて①発生時の対応、②予防への取り組み、③対策における困難感等とした。

分析方法：第1段階のベースプログラムを補完し、より実際に即した実践可能なプログラム開発のための要素抽出を目的として、インタビュー内容を、ガイドラインを参考に①感染源対策、②感染経路対策、③感受性宿主対策に分類した。カテゴリーを【 】、サブカテゴリーを〔 〕で示す。

2)結果

①対象施設および対象者の属性

園児数はA施設100名、B施設83名、C施設98名であり、全ての施設に看護師が1名以上配置されていた。また、全ての施設に感染症発生時対応のフロー図が整備されていた。インタビュー対象者は全員女性、職種経験年数は平均9.7年(2～17年)、冬季感染症(インフルエンザ、ノロウイルス)対策の研修会参加経験あり5名、なし4名であった。

②保育士のインフルエンザ対策の実態

感染源対策として【発症者および発症の可能性がある対象者の集団からの分離】が行われていた。感染経路対策として、〔温度・湿度管理〕といった【室内環境の整備】、【手指衛生の徹底】、園内【設備の環境整備】、【遊具の消毒】、自身の感染予防や他者に感染させないことを目的とした【マスクの着用】、〔換気〕、〔オゾン散布〕をはじめとした市販の対策グッズを用いての【空気の洗浄】が行われていた。感受性宿主対策では、子どもたちの日々の体調を把握するために【健康状態の観察】が行われていた。また、保育士は【予防接種の必要性の認識】を持っていた。他方、【子どもたちの感染予防に向けた教育的かかわり】の中で子どもの〔生活習慣についての教育〕や〔子どもの免疫力を高める取り組み〕といった、子どもたちの健康づくりに関する取り組みについて語ったのは1名のみであった。保育士は〔出席停止基準の理解が曖昧〕、〔自分の対応の正しさへの疑問〕等【対応への自信のなさ】を感じており、〔感染拡大の防止方法〕や〔予防方法の再確認〕等の【知識や情報を得る】ことを望んでいた。

3)考察

保育士はインフルエンザ対策として、感染経路対策を重視していた。また、保育士はインフルエンザへの対応の自信のなさやこれまでの経験から、ガイドライン上に基本的な取り組みとして明示されていない対策を実施している状態にあった。このことは、手洗いや手指消毒といった有効性が明らかとなっている基本的な対策がおろそかになっている可能性を示唆している。保育士には、これまで自分たちが行ってきた実践を感染症の知識やインフルエンザの正しい理解と結び付けて、振り返る機会が必要であると考えられた。

4)ベースプログラムとインタビュー調査を統合したプログラムの開発、実施

対象者：インタビュー調査の対象3施設の保育士30名に参加を呼びかけ、23名の参加であった。

実施期間：プログラム実施期間は、2019年6月～7月であった。

プログラム概要：実施時間 ①②③⑥：各5分 ④：30分 ⑤：10分 計60分

①感染症総論(感染症とは、感染症成立のための3大要因)

②インフルエンザとは(特徴・特性、感染経路)

③感染源対策(隔離、出席停止基準)

④感染経路対策(手洗い・アルコール手指消毒(実技を含む)、うがい、マスク)

⑤感受性宿主対策(子どもたちの健康づくり、予防接種の効果と必要性)

⑥市販対策グッズの使用について

⑦その他(環境整備、咳エチケットについての資料を配布)

**研究Ⅱ：インフルエンザ対策プログラムの効果の検討**

【第1段階：インフルエンザ対策プログラム 実施前後 評価】

【第2段階：インフルエンザ対策プログラム 実践後 評価】

**1) 評価方法**

プログラム評価に関する質問紙調査をプログラム実施前後(2019年6～7月)およびインフルエンザ対策実践後(2020年2～3月)の3時点で実施した。

**2) 調査内容**

調査内容は①対象者の基本属性(年齢、性別、職種の経験年数等)、②アウトカム評価(感染症およびインフルエンザに関する知識15項目、インフルエンザ対策への自信、これまでのインフルエンザ対策の改善意欲等)、③プロセス評価(目的のわかりやすさ、全体時間の適切さ等)、④内容評価(プログラムにおいてもっと詳しく知りたいと感じた項目、プログラムを通して新たに気づいたこと等)、⑤活用度評価(実際のインフルエンザへの対応で役立つ項目、配布資料の活用度、実際のインフルエンザへの対応を経験してもっと詳しく知りたいと感じた項目等)とした。

**3) 分析方法**

感染症およびインフルエンザに関する知識15項目やインフルエンザ対策への自信等の実施前、実施後、実践後での比較には、カイ二乗検定および残差分析を用いた。自由記載は、文脈のまとまりごとに区切って解釈し、意味内容の類似性に基づき分類した。

**4) 結果**

感染症およびインフルエンザに関する知識15項目は、①インフルエンザの知識7項目、②手洗いで洗い残しが起こりやすい部分5項目、③マスクの着用が必要となる場面3項目から構成される。実施前後、実践後3時点での正解率の比較では、実施前と比較し実施後は15項目中13項目で正解率が8割以上であり、すべての項目で正解率が上昇していた。実施前と実践後の比較では、実践後において12項目の正解率が上昇、1項目が同率、2項目が低下であった。

インフルエンザ対策への自信は、1施設目のプログラム実施後に新たに評価項目として取り入れたため、1施設目の7名を除いた15名の集計とした。実施前は「まあ自信がある」とした者が有意に少なく( $p < .05$ )、「あまり自信がない」とした者が有意に多かった( $p < .05$ )。実践後は「まあ自信がある」とした者が有意に多かった( $p < .05$ )。

これまでのインフルエンザ対策の改善意欲7項目について、①手洗い、②アルコール手指消毒、③子どもたち自身の健康づくりに関する働きかけ、④予防接種に関する働きかけの4項目の平均値はすべて4.5(範囲：1－5)以上であり、改善への意欲が高かった。⑤うがい、⑥マスクの着用、⑦市販の対策グッズの利用は、項目平均値が3点台であり、他の項目と比較し改善意欲は低かったが、改善意欲はみられた。

**5) 考察**

感染症およびインフルエンザに関する知識15項目の正解率は、実施後、実践後においてほぼすべての項目で正解率が上昇しており、本プログラムは感染症およびインフルエンザの基礎知識の獲得に寄与できることが示唆された。またガイドラインをベースとしたことで、感染症成立の3大要因や手洗いといった感染症全般に共通する内容が含まれているため、インフルエンザだけではなく様々な感染症に活用できる可能性がある。

保育士へのインタビューを実施し、ガイドラインをベースに保育士のニーズを取り入れたプログラムとしたことで、保育士はインフルエンザ対策に対する心配や疑問点の解消、不足していた知識の獲得ができ、そのことがインフルエンザ対策への自信の向上やこれまでの対策の改善意欲につながったと考えられた。

【細則様式第 1－2 号続き】

学位論文のもととなる研究成果としての筆頭著者原著

論文題目	Influenza countermeasures among nursery teachers: Current status and challenges
著者名	Kengo Takidai, Chiaki Kitamiya
掲載学術誌名	日本看護研究学会雑誌
巻，号，項	未定
掲載年月日	未定